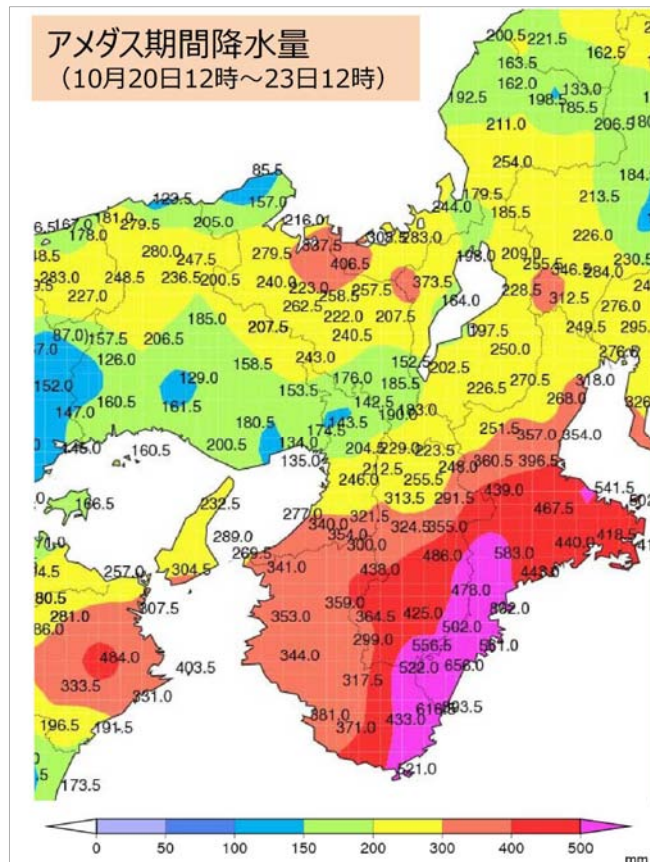


台風第21号による大雨の状況

資料4

平成29年10月16日に日本の南海上で発生した台風21号は、21日から23日にかけて、超大型・強い勢力を維持したまま西日本に接近し、近畿全域に非常に激しい雨をもたらした。和歌山県新宮市では48時間の降水量が888.5ミリを記録し、観測史上1位の値を更新した。

滋賀県では22日の朝から強風域に入り、野洲川流域では、21日10時から23日13時までの降水量が235ミリを記録した。野洲水位観測所では、22日の明け方から徐々に水位が上昇し、22日22時に水防団待機水位(+2.5m)を上回り、23日2時には観測水位+3.29mを記録した。この出水の影響により、野洲市南櫻地区の野洲川右岸11.2k付近の護岸ブロックが崩壊し被災した。



出典：平成29年台風第21号 近畿地方整備局の取り組み

被災箇所の保護対策工事の実施

今回被災した野洲川右岸11.2kの護岸の本復旧までの暫定的な処置として、平成30年2月から被災箇所の保護対策(巨石設置)を実施し、洪水などからの法面の洗掘を防止します。また、平成30年の出水期明けからの本復旧工事の着手に向け、被災した箇所の護岸の詳細な検討を行い、平成31年の出水期前の本復旧工事の完成を目指しています。



巨石設置完了



保護対策工事(巨石設置)の状況